

令和2年度オープンアクセス委員会活動経過報告

1. 会議等の開催状況

- (1) 令和2年度事業計画の策定に係るメール審議（令和2年7～8月）

2. 令和2年度の活動内容について

今年度の事業計画、及びこれまでの活動等は以下のとおり。

- (1) 会員館におけるオープンサイエンス推進に係る先行的取組事例の収集・共有
 - ・ 取組事例集を作成中（令和2年10月）
- (2) これまでの活動の振り返り・まとめ
 - ・ 現ビジョンに関連して実施した取組について、概要を取りまとめ（次項参照）（令和2年10月）

3. 現ビジョンに関連して実施した取組

- ・ 当委員会の主な使命は、協会ビジョンのうち、「重点領域 1. 知の共有：〈蔵書〉を超えた知識や情報の共有」－「目標 1) 教育研究成果の発信、オープン化と保存」の実現に資することである。
- ・ 最初の2年間（平成28～29年度）は、ビジョンの実現に向け、オープンアクセスへの取り組み状況を把握するための実態調査と二次調査、及び管理職職員を米国に派遣してのオープンアクセス及び研究データ管理に関する調査を行った。
- ・ しかし平成30年の第65回総会において、各委員会活動の再点検およびビジョンに基づく協会全体のアクションプランの検討が理事会に付託され、結果として、各委員会に対し、研究データ管理、オープンデータ、オープンサイエンスに関する国の政策動向を踏まえた活動が求められることとなった。そのため、以後の2年間は研究データの管理・公開等に重きを置いた活動を実施することとなった。
- ・ 平成30年度は、「機関リポジトリの再定義について」の作成等を行い、令和元年度は、オープンサイエンス・研究データ管理に関する取組状況調査等を行った。
- ・ 今年度は、これらの活動がどの程度ビジョンの実現に貢献できたのかについて総括する。

<参考：これまでの活動>

<平成28年度>

- ・ オープンアクセスへの取り組み状況に関する実態調査
[報告書] http://www.janul.jp/j/projects/oa/OA_report_201703.pdf

<平成29年度>

- ・ 平成28年度実態調査の結果を踏まえた二次調査（※報告書作成は平成30年度）
[報告書] https://www.janul.jp/sites/default/files/OA_report_201903.pdf

- ・ オープンサイエンス関連管理職職員海外派遣事業
 [報告書] 西岡 千文, 杉田 茂樹, 山中 節子. 米国におけるオープンアクセスと研究データ管理. 大学図書館研究, 2018, 109.
<https://doi.org/10.20722/jcul.2007>

<平成 30 年度>

- ・ 「機関リポジトリの再定義について」の作成
https://www.janul.jp/sites/default/files/janul_redefining_the_institutional_repository_20190805.pdf
- ・ 「オープンサイエンスに向けて国立大学図書館が担う具体的役割」の作成
https://www.janul.jp/sites/default/files/janul_specific_role_for_open_science_20190412.pdf

<令和元年度>

- ・ オープンサイエンス・研究データ管理に関する取組状況調査
- ・ 「研究データに関する研究者の実態とニーズの把握のための調査の手引き」の作成
https://www.janul.jp/sites/default/files/OA_researchmethod_202004.pdf
- ・ 「研究データのオープン化とそのメリット」の作成
https://www.janul.jp/sites/default/files/OA_reportA_202004.pdf

4. 委員構成

委員長：	長谷川 晃	北海道大学附属図書館長 (令和 2 年 9 月まで)
	山本 文彦	〃 (令和 2 年 10 月から)
委員：	藤井 朱鳥	東北大学附属図書館北青葉山分館長
	大向 一輝	東京大学大学院人文社会系研究科准教授
	相原 雪乃	北海道大学附属図書館事務部長
	鈴木 秀樹	筑波大学学術情報部長
	高橋 菜奈子	東京学芸大学総務部学術情報課長 (併) 情報基盤課長
	大元 利彦	広島大学図書館図書館部長
	山本 和雄	鹿児島大学附属図書館学術情報部長
事務局：	結城 憲司	北海道大学附属図書館研究支援課長
	松尾 博朋	北海道大学附属図書館研究支援課課長補佐
	堀越 邦恵	北海道大学附属図書館研究支援課係長